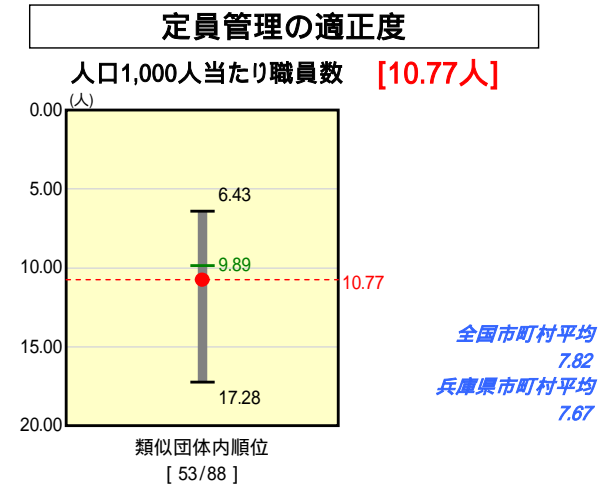
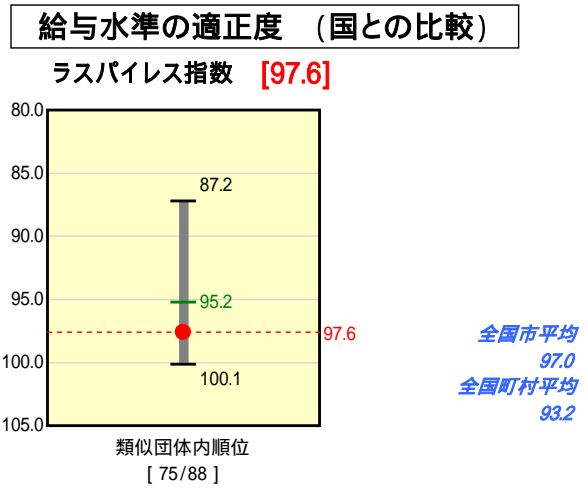
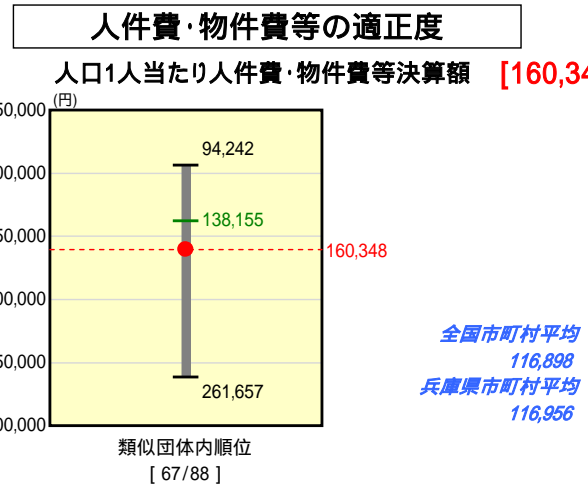
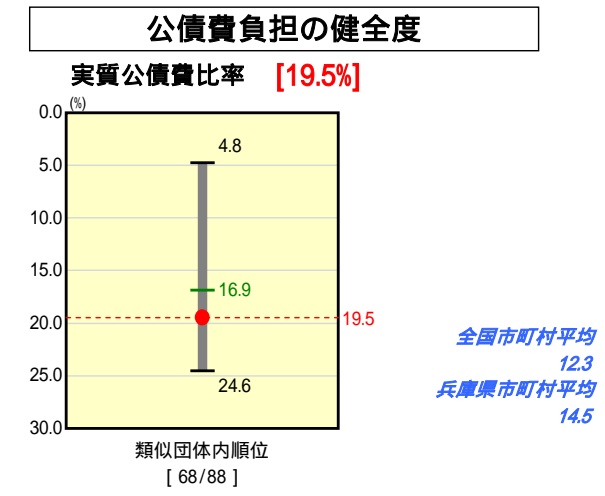
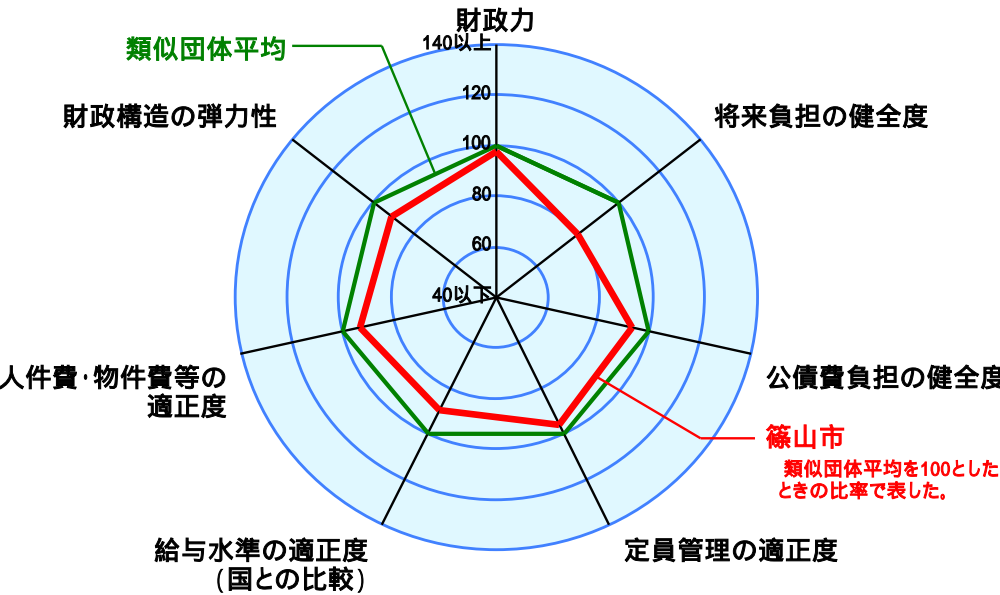
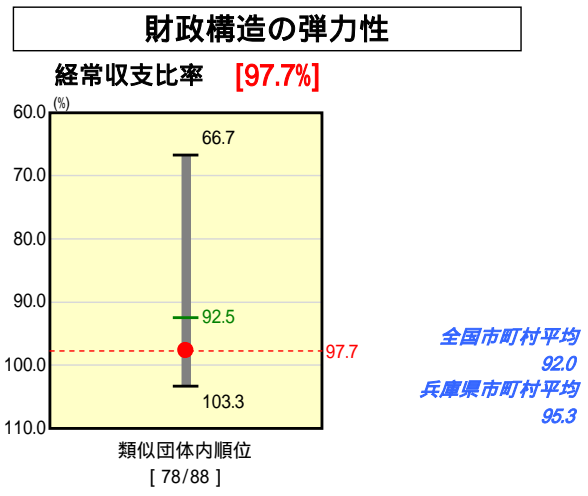
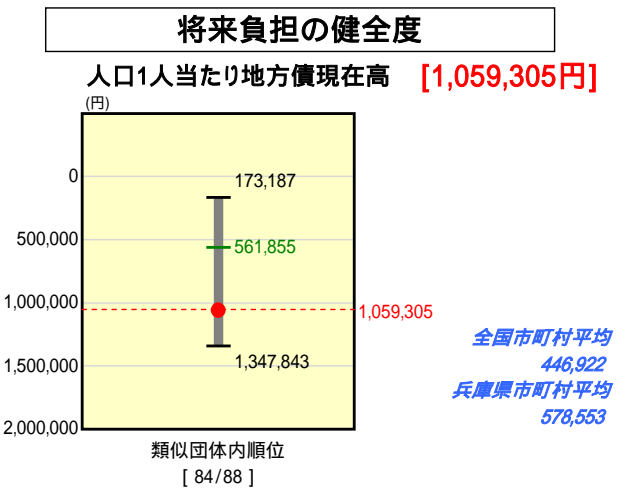
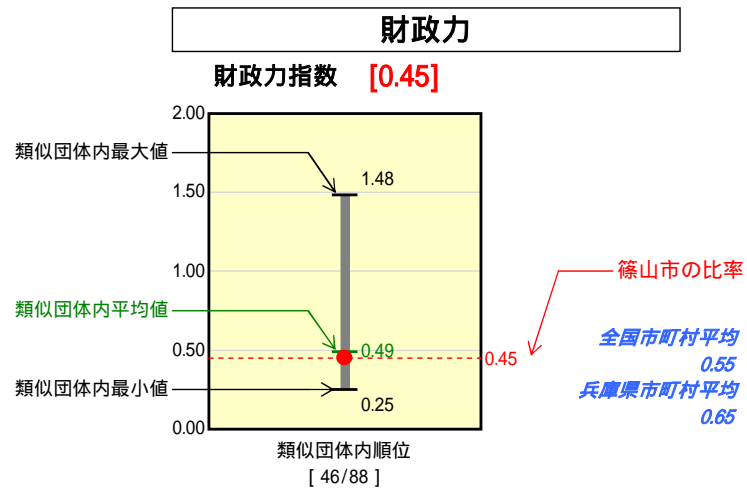


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

兵庫県 篠山市

人口	45,508人	(H20.3.31現在)
面積	377.61	km ²
歳入総額	22,562,578	千円
歳出総額	22,167,445	千円
実質収支	382,281	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数
平成13年度以降連続して低下しており今年度は類似団体内の平均数値を若干下回った。これは収入については概ね前年と同額であるものの下水道事業を含めた公債費が増加しているためである。今後は投資的経費の抑制や繰上償還等をおこない財政基盤の強化に努める。

経常収支比率
前年度に比べ0.5ポイント悪化した。これは、下水道事業への繰出金や水道事業会計への高料金対策に要する繰出金などの経常経費が増加したためである。今後も公債費の償還や下水道・水道への繰出金がピークを迎えるうに交付税の段階的縮減により厳しい状況が予想されるため、篠山再生計画に基づく行政改革による経費節減をおこない指数の抑制に努める。

人口1人当たり地方債現在高
昨年に引き続き類似団体内の平均に比べほぼ2倍近くの水準にあるが、昨年度に比べ兵庫県平均で約2万円の減となるなかで本市は約7万円の減となった。これは、昨年同様、新規地方債の発行の抑制ならびに既に借入しているものについては繰上償還を行ったことによる。今後も繰上償還等を行なうことにより類似団体平均の水準をめざし健全化に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
前年度に比べ1千円改善しているものの類似団体内平均よりも1割強多い額となった。管理職手当の削減、退職者不補充など人件費の抑制に努めているものの合併による施設の統廃合がすすんでおらず維持管理経費が多くなっている。今後とも統廃合も含め施設の運営の見直しに努める。

実質公債費比率
昨年度に比べて1.6ポイント悪化したことにより、昨年度類似団体平均値と同水準であったものが平均値を下回る結果となった。これは、下水道会計への繰出金の増加や水道事業会計への高料金対策に要する繰出金が増加していることによる。今後も水道事業への繰出金が増加する見込みであることから、各会計ともに新規借入を最小限に抑えとともに補償金免除等の繰上償還により指数の抑制に努める。

人口1,000人当たり職員数
平成25年4月1日における全職員数の目標値を450人とし、今後職員の新規採用については3名程度として職員数の適正化に努めるとともに第3次定員適正化計画を策定し、より一層の職員の削減に努める。

ラスパイレス指数
篠山再生計画に基づき平成20年度より行なわれている給与削減を実施することにより更なる給与の適正化に努める。